「航空のOR」の特集に当って

太田　正樹

1.　航空のOR

「速度の時代，急速な交通の時代．これが現代のもっともいちじるしい特徴であろう」――あるフランスの文明批評家はそう指摘した．わが国においても，国内線に大型ジェットが就航し，現代はますます「速度の時代」と呼ぶにふさわしいといえる．昭和54年度の国内線航空旅客数は4000万人をこえ，航空輸送は完全に「大衆の足」として定着している．

航空輸送を1つのシステムとしてとらえると，航空機の離発着する空港施設，航空機が安全に航行するための管制・通信施設，航空機の運航にあたる航空会社から成り立っており，相互に発展して今日の航空時代に至った．

従来，交通の分野においては「交通のOR」としてOR的な研究は盛んであり，この分野において数々の研究成果がある．この特集においては比較的狭い意味でのOR的側面よりも，広く空港整備の問題，航空管制の動向など航空輸送全体についてとり上げた．OR研究者の航空分野への積極的な参加を希望する．

2.　特集の構成

松永氏の「今後の空港整備」では，昭和56年度からスタートする第4次空港整備5カ年計画を中心にして，わが国の空港整備のあり方，その問題点などを指摘していただいた．

中田氏の「航空管制」は，現在の航空管制の方法，管制能力を分析し，空港能力の拡大にともなって，管制能力をいかに拡大するかなど今後の管制上の課題をとり上げている．

有賀氏の「座席数検討のためのOR的アプローチ」は航空会社におけるORの典型的な適用例であり，旅客の潜在需要推定の方法を分析し，各路線ごとの適正機材の決定，座席構成など興味深い課題が研究されている．

神子氏らの「DPを利用した航路決定方式」はフライトプランの作成過程にDPを利用した新しい方法を開発し，従来の方法より短時間の航空路を選定している．省エネルギーという観点からもきわめて有効な研究成果である．

植木氏の「航空機部品とOR」は，航空機部品の特性を把握し，航空機運行の安全性，定時性，快適性の維持という観点から全日空独自の補給部品の在庫管理方式を展開している．

浜口氏の「航空座席予約システム」は航空会社の日常業務である座席予約システムを実際に設計された立場から，東亜国内航空の現在のシステムを紹介していただいた．

最後に，本特集をまとめるに当って御協力いただいた方々に深く感謝する次第である．

おおた　まさき　早稲田大学　システム科学研究所

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．